（前頁より）

すなわち、インシデント・アクシデントの発生率を臨床指標として定義・設定すると、この臨床指標を改善する努力が医療安全の向上につながるのではないかと考え、「インシデントレポート分析から導入した手術室関連臨床指標」を第12回学術総会で発表し、さらに推薦を頂いて論文投稿するに至った次第です。今回導入を試みた臨床指標が経年的に良くならなければ、医療安全が向上したことの証明にはなりません。今はやっと指標を導入した段階ですので、論文中でも述べましたがPDCAサイクルを一回転させるためにも、来年・再来年と継続して指標の収集活動を続けていく所存です。さらに、現状では他病院との比較が難しい臨床指標が、今後は多くの病院間で比較できるよう、医療界全体の意識改革とシステム構築を望んでいます。

今回の受賞を励みとして、医療の質と医療安全の向上に今後とも努力していきたいと思います。

第12回日本医療マネジメント学会学術総会会長賞を受賞して

国立病院機構仙台医療センター呼吸器外科　羽隅　透

この度は、はからずもこのような名誉ある賞をいただき大変光栄に思います。私が第12回学術総会にて発表しました内容は平成20年度の国立病院機構指定研究でありました「疾患別医療者用/患者用クリティカルパスの行程内容と患者アウトカムとの関連に関する比較研究」の分担としてまとめたものです。今回は私のみが賞をいただく形となりましたが、研究班全体として、その業績を評価していただけたものだと思っております。研究班班長でありました国立病院機構仙台医療センター前院長の菊地 秀先生、そして多くのご指導、ご助言をいただきました国立病院機構熊本医療センターの野村一俊先生、国立病院機構九州医療センターの井口厚司先生をはじめとします班員の先生方には大変感謝いたします。また、ご協力いただきました全国の国立病院機構の先生方にはあらためて御礼を申し上げます。

第12回学術総会会長賞を授与される羽隅　透氏

分科会 開催報告

2011年度第1回医師事務作業補助者講習会を受講して

財団法人筑波メディカルセンター　塚田 恵美子

書類作成実習風景

今般、2011年度第1回医師事務作業補助者講習会を受講する機会を得ることができました。私は現在、総務部門に所属しており、医事コンピュータやカルテ等を扱うこともほとんど無く、内容が理解できるか不安でした。しかし、医療は365日昼夜を問わずに必要とされ、その医療を提供する体制を維持するには、医療事務や診療情報管理等の専門職以外であっても、もっと医療従事者としての基礎知識を身に付ける必要があると痛感し、受講に至った次第です。

また、本講習会を選んだのは、医療や教育の現場の第一線で活躍されている魅力的な講師陣に惹かれたためです。日程に配慮がされていて、時間や交通費等の工面がしやすい点も理由のひとつでした。

講習会では、先生方の熱のこもった講義と、コンパクトかつ実務のエッセンスが詰まったテキストにより、基礎的なことから学ぶことができました。模擬カルテを用いた書類作成実習でも、詳しい解説があり、不明な点は気軽に質問ができました。本講習会の内容は、部署を問わず病院職員に必須の知識と思われ、医師事務作業補助の実務者でなくとも、初級者は基礎学習と実務のポイント予習に、上級者は知識の総復習にと役立つはずです。

急性期病院における医師の多忙さを目にして、IT化で業務効率は上がったはずであるのに、記録すべき書類は山の様にあり、もし事務職が代行できる業務があるならば、講師が度々口にしていた「いかに医師事務作業補助者の活躍が期待されているか」という言葉は、受講者への単なるリップサービスではないと感じました。

今後も活躍の範囲が広がると思われる医師事務作業補助業務において、個人的には診療情報の統計等の講座開催も期待いたします。ご多忙の中、ご講義下さった先生方や早朝からご準備下さったスタッフの皆様に心より感謝しております。

支部学術集会開催報告

第10回長野支部学術集会

学術集会会長：長野赤十字病院病院長　清澤研道

2011年5月21日(土)長野赤十字病院を会場に、「これからの医療・福祉・介護の連携！」をテーマとして、第10回